

検討しています

消防の広域化

問い合わせ 消防本部総務グループ

(☎85)9611)

北海道は、国の基本指針に基づき、全道に67ある消防本部を平成24年度末までに22に統合することとした『北海道消防広域化推進計画』を策定しました。

これを踏まえ、登別市と室蘭市、西胆振消防組合（伊達市・洞爺湖町・豊浦町・壮瞥町で構成）は、消防の広域化について検討しています。

消防行政の課題

近年、災害の大規模化や、住民ニーズの多様化など、消防行政を取り巻く環境は大きく変化しています。

消防はこの変化に的確に対応し、住民の生命や財産を守る責務を果たす役割がありますが、人口減少や少子高齢化の影響を受け、職員数の減少や税収・交付税収入の減少、高齢化などに伴う救急出動の増加など、将来に向けて多くの課題を抱えています。

また、管轄人口が10万人未満の小規模な消防本部では、出動人員に十

分な余裕が無かったり、高度な車両や資器材が整えられなかったり、年齢構成に不均衡が生じやすくなるなどの課題もあります。

消防の広域化

このような課題を踏まえ国は『消防組織法』を一部改正するとともに、管轄人口おおむね30万人を目標とした消防の広域化を、平成24年度末をめどに実現することを旨とする『市町村の消防の広域化に関する基本指針』を平成18年に定めました。

また、北海道は同指針を受け、道内67消防本部を広域化により22消防

本部とする『北海道消防広域化推進計画』を策定しました。

その中では、登別市は室蘭市と伊達市、洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町で組織する西胆振消防組合の3消防本部を広域化により、1つにすること示されています。

広域化に対するこれまでの取り組み

このことから、室蘭市、登別市、西胆振消防組合の3消防本部は、平成20年11月から消防の広域化について、総務、警防、予防、財政の4部会を設けて、それぞれの消防本部の消防体制などの現状や課題の把握、広域化への課題などについて調査や研究を行っています。

広域化に対する市の考え方

人口減少による財政状況に伴う消防力の低下や高齢化社会に対する救急活動、さらには複雑多様化する災害などに適切に対応するため、消防体制の強化や資器材の充実を図る必要があることから、総合的な構想として消防の広域化を検討しなければならぬと考えています。

しかし、これまでの調査や研究から、広域化に向けて解決すべき課題も多く挙げられていることから、引き続き、3消防本部で調査・研究を進め、広域化についての協議を進めていきたいと考えています。

また、この後の進捗状況については、適宜情報を提供してまいります。

消防を広域化することのメリット

消防の広域化は、消防体制の充実や資器材の整備などの基盤を強化し、地域の消防力を向上させることを目的に行うものです。

また、組織規模を大きくすることで得られる効果として、次のようなことが挙げられます。

①住民サービスの向上

- 災害時の初動体制が強化され、統一的な指揮下で効率的な部隊運用ができる
- 消防署の配置や管轄区間の適正化を図り、災害現場までの到着時間が短縮できる

②消防体制の効率化

- 本部機能を統合することにより、現場で活動できる人員を増強できる
- 救急や予防業務のレベルを上げ専門性を高められる
- 消防資器材などの整備の重複が避けられ、経費の節減ができる

③消防体制の基盤強化

- より高いレベルの施設・設備を計画的に整備できる

検討しています
消防の広域化